



No.10

ちっくんの料理や取り扱う食材のこと、その生産者さんや内装工事のプロまで、店作りで関わる様々なモノや人に焦点を当て情報をお届けします!!

ご自由に
お持ち帰り
下さい

夏の生産者さんを訪ねて

山形・河北町のイタリア野菜生産者さんと茨城のお米生産者・栗ちゃんの、この時期の仕事の様子をお伝えします。

Oota-san

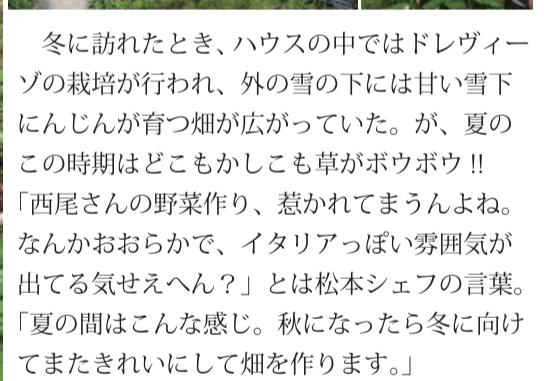


水のはられた新緑の水田の真ん中に、この夏新たに開墾した太田さんの畑があった。丁寧に、情熱を注ぐその野菜作りは、まさに太田さんの天職。畑は遠くから見ても、「あ！太田さんの畑!!」と認識できるほどに美しく整い、「清潔」という言葉がぴったりくる。「今年は地元の給食でカプリスが使われることになったので、たくさん作らないといけないんですよ！子供達に食べてもらえて嬉しいです。収穫時期には東京からお客様をよんで収穫体験ツアーもやりますよ。両手で抱えるくらい大きくなる立派な茄子なんで、ぜひ楽しみにしていて下さい！」畑で話す太田さんは、すごくいい顔をしていた。

Hori-san



Nishio-san



河北町から少し離れた標高の高い山間の畑で、夏の野菜作りをする堀さん夫妻。この地域は昔からの風神祭が行われる、気持ちのいい風が通り抜ける場所だ。訪れた畑では、現在ズッキーニの栽培真っ最中。「収穫時期のズッキーニは、朝晩2回それぞれ3時間ほどかけて採らないと追いつかないほど。小学生の息子は、この時期一人で朝ご飯を食べて登校しないといけないんです。夏休みは自由研究でズッキーニの成長と一緒に調べようと思っています。」

9月は稻刈りの時期！ちっくんのスタッフも稻刈りをやってきました。「水分がついてしまうとお米はダメになってしまって、昔はこんな風に1ヶ月間乾燥させていました。」刈った稲を束ね、組んだ竹に掛けて干す「おだがけ」を教えてくれた栗ちゃん。今回は、ちびっ子達を集めて親子の稻刈り体験教室も開催した。一人でもくもくと稻刈りに没頭する小学生の男の子やまだ小さな女の子もママと一緒に

鎌を持ち、刈って刈って。カエルやコオロギ、バッタに大興奮し、皆で協力してやり遂げました。「農業を通じて笑顔を創りたいという思いがひとつ実現できた。皆が稻刈りを楽しんでくれている様子、美味しいご飯を食べている様子を見て、もう涙が出そう。これからも続けていきたい試みです。」栗ちゃんの嬉しそうな顔がとても印象的だった。